

「心に残る文化財子ども塾」～雲南市立阿用小学校～

活動の概要・様子

令和7年6月19日（木）、雲南市立阿用小学校の6年生を対象に「心に残る文化財子ども塾」を行いました。テーマは「地域の歴史と火おこし体験・古代食づくり」です。

最初に、およそ1300年前の地誌「出雲国風土記（いずものくにふどき）」における「阿用」の記述を紹介しました。風土記では、「阿用」の地名が恐ろしい鬼にまつわるエピソードに由来することが記されており、子どもたちはその事実には驚きつつも、地域の歴史が長く継承されてきたことに強い関心を示しました。



ふるさと阿用に歴史あり！

次に、阿用地域周辺の遺跡を、出土遺物なども交えて紹介しました。本物の土器や石器に触れる経験は、普段の授業や博物館ではなかなか得られません。子どもたちは、使い方や作り方を学んだり、現代の道具と比べたりしながら、大昔の生活に思いを馳せました。



今の道具と同じ？違う？

「火と食の歴史」の説明の後、中庭で火おこし体験を行いました。「マイギリ法」という方法で一生懸命摩擦を起こしていくと、下の木の板に穴が開き始めます。そうして板の穴が増えていくと、先ほど謎の遺物として提示された穴だらけの板とそっくりな形になりました。「そういうことだったのか！」と、体験を通して謎が解明される瞬間でした。へとへとになりながらも、コツをつかんだのか、各班で次々と火が起こり、無事かまどに点火することができました。現代では簡単に得られる火のありがたさを学ぶ良い機会となりました。



火と食の歴史をまなぶ



火おこしに挑戦！腕が疲れます…

燃え始めたかまどに炊飯用の土器をセットし、古代米と水を入れて炊飯開始です。頑張ってうちわで風を送ると、土器の蓋からぷつぷつと蒸気が！お米の炊けるいい匂いが広がりはじめました。お昼も近く、すぐに食べたいところですが、まだ開けてはいけません。かまどから土器を外してじっくり蒸らしの時間です。



「始めちょろちょろ中ぱっぱ、赤子泣くとも蓋取るな」

蒸らしの間は調理室で、各班がどんぐり粉に卵や水を混ぜて一心不乱にこねます。できあがったどんぐりクッキー生地に思い思いの文様を施して、フライパンに投入。「おいしくできたかな…」とドキドキの様子です。



栄養価たっぷりの縄文グルメ！

焼きあがったクッキーをもって中庭に戻り、食事の準備です。まずは炊飯用の土器を取り囲み、いざオープン！姿を現した赤くふっくらとした米は、子どもたちの歓喜の声に包まれました。さらに、学校の先生からのサプライズで、お皿代わりの丈夫で大きな葉っぱが。葉っぱにお米とどんぐりクッキーをのせると、まるで過去にタイムスリップしたような雰囲気になりました。



古代人になりきって、いただきます！

いよいよ実食です。古代米は歯ごたえとほのかな甘みがあり、疲れた体に染みわたりました。どんぐりクッキーはほろほろとした食感でうまみがあり、好評でした。

子ども塾を終えて

① 児童の皆さんから

- ・ 阿用に遺跡がたくさんあると知り、実際に行ってみたいと思った。
- ・ こんなに大変な火おこしをやっていた縄文人はすごい。
- ・ 自由研究で遺跡について調べたい。
- ・ 阿用という名前が 1300 年前からあるのはすごい。
- ・ 縄文土器づくりをしてみたい。

② 担任の先生から

- ・ 丁寧な打ち合わせと準備、当日の子供の反応に合わせた進行が良かったです。ありがとうございました。

③ 埋文センターから

- ・ ふるさとの歴史にさらに興味をもって、守り受け継いでくれると嬉しいです。
また、楽しいだけじゃない、大変だった古代の暮らしの体験を通して、現代の暮らしのありがたさを感じてほしいです。



古代食づくり大成功！